

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月28日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21402012

研究課題名（和文） 宗教、国家、マイノリティが織りなす環黒海跨境政治

研究課題名（英文） Transnational Politics in the Black Sea Rim: Unknotting Religions, States, and Minorities

研究代表者

松里 公孝（MATSUZATO KIMITAKA）

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号：20240640

研究成果の概要（和文）：冷戦後出現した新しい地域である環黒海地域を研究するために、旧ソ連東欧研究者とトルコ研究者が協力した。環黒海地域は国民国家の伝統を持たず、トランスナショナル・アクター（TNA）が大きな役割を果たす。本研究は、TNAの中でも宗教組織（正教、イスラーム、反カルケドン派キリスト教）と跨境マイノリティ（ヴラヒ人、クルド人、メグレリ人、アルメニア人等）に注目し、従来の国家中心の地域認識に挑戦した。

研究成果の概要（英文）：In this study, specialists in the former Soviet Bloc and Turkey cooperated to analyze the Black Sea Rims, a new macro-region having emerged after the Cold War. The Black Sea Rims do not have the tradition of nation state, and transnational actors play important roles there. Among various transnational actors this study focused on religious organizations (Orthodoxy, Islam, and anti-Chalcedon Christianity) and trans-border minorities, such as Vlachs, Kurds, Mingrelians, and Armenians, and challenged the traditional state-centered understanding of this region.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
2010年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2011年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
年度			
年度			
総計	13,700,000	4,110,000	17,810,000

研究分野：社会科学A

科研費の分科・細目：政治学

キーワード：環黒海、非承認国家、トランスナショナリズム、宗教、マイノリティ

1. 研究開始当初の背景

冷戦終了から20年たち、旧共産圏境界と、「鉄のカーテン」を挟んでそれに対峙していた地域から新しい地域が多く生まれた。その一例は環黒海地域である。しかし、研究者コミュニティの側は、旧ソ連・東欧研究と中東研究に分断されたままであった。環黒海地域は、国民国家の伝統が浅く、宗教組織、跨境（国境を越えて分布する）マイノリティなどのトランスナショナル・アクター（TNA）が

広域政治に大きな役割を果たす地域である。しかしTNAに関心を絞ったこの地域の研究はなかった。

2. 研究の目的

(1)環黒海地域という新しい地域に対応した研究者コミュニティを作ること。また、この地域概念について国際的にアピールすること。

(2)従来、環黒海地域研究においては、パイ

プラン外交や非承認国家をめぐる紛争（典型は、2008年南オセチア戦争）などの国家・対・国家の古典的な地政学が主流だったので、正教・アルメニア使徒教会・イスラームなどの宗教組織や、クルド人、ヴラヒ人、ブルガリアやアブハジアのムスリム、アブハジアのアルメニア人・メグレリ人などの跨境マイノリティに注目し、ソフト・パワーを軸とした新しい地政学的分析を行うこと。

(3)ロシアとトルコをはじめとする地域大国の台頭が環黒海地域の広域政治に及ぼす影響を考察すること。

(4)従来、国家・対・国家の観点から分析されてきた非承認国家問題などの地域紛争を、跨境マイノリティや宗教の観点から分析することで、新しい視角を提供すること。

3. 研究の方法

(1)環黒海地域の政治過程はしばしば欧米とロシアの対抗関係から解釈され、学術的・客観的な分析が難しい。また、本研究の視点は従来にないものなので、既存文献に依拠することもできなかった。そのため、徹底した現地調査を研究推進の基礎に置いた。

(2)国家間の関係よりも、宗教組織や跨境マイノリティなどのTNAを重視した。

(3)環黒海地域研究者の国際的なコミュニティを形成することが課題だったので、研究成果を活発に国際的に発表した。特に、2011年のASEEES（全米スラブ学会）でパネルを組織したことは重大な意味がある。

4. 研究成果

(1)旧ソ連・東欧研究者とトルコ研究者の本格的な研究協力を開始した。環黒海地域にとって、トルコの台頭や独自外交が大きな意義を持っていることが明らかになり、欧米中心、新冷戦的な見方の不十分性が明らかになった。残念ながら今年度は実現されなかったが、近い将来に、「トルコと周辺地域」をテーマにした共同研究に着手する構想が生まれた。

(2)環黒海地域は、東アジア等と比べると、小国が多く、国民国家の伝統もなく、個々の国家の自立性が少ない。このような地域を研究するには、個々の国家を個別に研究しても成果は得られず、広域政治の観点が重要であることが明らかになった。本研究で発表された業績の多くは、複数の国家にまたがった現地調査の結果である。

(3)環黒海広域政治において宗教、跨境マイノリティなどのTNAが果たす役割を、現地調査に基づいて明らかにした。これは、国家中心の国際関係論に修正を迫るものである。トランスナショナルなアクターに注目し、しかもそれらのソフト・パワー（認知操作的資源）に注目する方法は、人文地政学とも呼べようが、今後の発展可能性を秘めた方法であ

る。

(4)廣瀬がアジア太平洋賞特別賞を受賞、佐原がPalgrave社より単著書籍を刊行、松里の論文がNationalities Papersに、松里・澤江の共著論文がReligion, State & Societyに掲載されるなど、本研究の成果は大きなインパクトを持ち、国際的に評価された。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計33件）

①澤江史子、「クルド問題をめぐるトルコの外交：紛争制御から包括的予防へ」、吉川元・中村寛編『中東の予防外交』信山社、2012、印刷中、査読無

②新免光比呂、「なぞの移動民族ヴラヒをおって：バルカン地域文化と近代文明の意義」、『地球時代の文明学』、第2巻、2012、219-227頁、査読無

③北川誠一、「イルハン国の西王道」、『ヨーロッパ・グローバリゼーションと諸文化圏の変容に関する研究』、2012、239-312頁、査読無

④廣瀬陽子、「グルジア紛争後のグルジアとアゼルバイジャン：未承認国家政策の変化を中心に」、『国際情勢紀要』、82巻、2012、157-167頁、査読無

⑤廣瀬陽子、「旧ソ連諸国が危惧する第二の「色革命」」、『地域研究』、12巻1号、2012、88-112頁、査読有

⑥廣瀬陽子、「米露リセットの限界とグルジア問題」、『国際情勢 紀要』、第81号、2011、267-280頁、査読無

⑦ Kimitaka Matsuzato、"Transnational Minorities Challenging the Interstate System: Mingrelians, Armenians, and Muslims in and around Abkhazia", *Nationalities Papers*, 39: 5, 2011, pp. 811-831、査読有

⑧ Kimitaka Matsuzato、"South Ossetia and the Orthodox World: Official Churches, the Greek Old Calendarist Movement, and the So-called Alan Diocese", *Journal of Church and State*、52: 2, 2010, pp. 271-297、査読有

⑨ Kimitaka Matsuzato & Fumiko Sawae、"Rebuilding a Confessional State: Islamic Ecclesiology in Turkey, Russia and China", *Religion, State and Society*, 38: 4, 2010, pp. 331-360、査読有

⑩佐原徹也、"The 1909 Adana Incident (Part 1): The Adana Province during the Nineteenth Century", 『明治大学教養論集』456巻、2010、99-127頁、査読有

⑪廣瀬陽子、「グルジア紛争後のトルコと南コーカサス諸国の関係：アルメニアとトルコの和解プロセスを中心に」、『中東研究』、

第 510 号、2010、94-111 頁、査読無

⑫ Kimitaka Matsuzato、"The Five Day War and Transnational Politics: A Semiospace Spanning the Borders between Georgia, Russia and Ossetia"、*Demokratizatsiya: The Journal of Post-Soviet Democratization*、17: 3、2009、pp. 228-250、査読有

⑬ Kimitaka Matsuzato、"Inter-Orthodox Relations and Transborder Nationalities in and around Unrecognised Abkhazia and Transnistria"、*Religion, State and Society*、37: 3、2009、pp. 239 - 262、査読有

⑭ 廣瀬陽子、「グルジア紛争：その背景とその後の世界」、『学会会報』、第 876 号、2009、59-64 頁、査読無

⑮ 澤江史子、「移民をめぐるトランスナショナル政治と出身国」、日本比較政治学会編『国際移動の比較政治学（日本比較政治学会年報第11号）』、2009、37-68頁、査読無

〔学会発表〕（計 23 件）

① 佐原 徹也、「ВМРО и турске тајне организације против четничких акција у Македонији」、国際学会“Први светски рат и балкански чвор”、2011 年 12 月 6 日、Институа за савремену историју (Serbia)

② Yoko Hirose、"Complex Perspectives on Nagorno Karabakh: From comparative views between the Azerbaijanis and the Armenians"、The International Scientific Conference "The Place and Role of Caucasian Albania in the History of Azerbaijan and Caucasus" (招待講演)、2011 年 12 月 1 日、ヒルトンホテル (バクー、アゼルバイジャン)

③ Kimitaka Matsuzato、"No Winner, No Loser"—The Joint Control Commission and Russia's Policies Towards South Ossetia and Abkhazia: 1991-2008"、43rd Annual Convention of Association for Slavic, East European and Eurasian Studies、2011 年 11 月 20 日、Omni Shoreham Hotel (WashingtonDC,USA)

④ Yoko Hirose、"The Perspective on Peace-building of the Unrecognized States from the Comparative Point of View: Focusing on the situation of Azerbaijan and Georgia after 2008"、43rd Annual Convention of Association for Slavic, East European and Eurasian Studies、2011 年 11 月 20 日、Omni Shoreham Hotel (Washington DC,USA)

⑤ Tetsuya Sahara、"Paramilitary in the Balkan Wars: The case of Macedonian Adrianople Legion"、International Conference, "The Balkan Wars: 100 Years After"、2011 年 9 月 8 日、Institute for Contemporary History (Serbia)

⑥ Tetsuya Sahara、"Between Heroes and Criminals"、International Conference "Lasting

Socio-Political Impacts Of The Balkan Wars"、2011 年 5 月 4 日、The Utah University (USA).

⑦ Kimitaka Matsuzato、"Faith or Tradition: The Armenian Apostolic Church and Community-Building in Armenia and Nagorny Karabakh"、The 16th Association for the Study of Nationalities Annual Convention、2011 年 4 月 16 日、Columbia University(USA)

⑧ 新免光比呂、「Far East Asia and South East Europe」、シンポジウム Linguistic and Cultural Identity in Japan 主催：ブカレスト大学日本研究センター(招待講演)、2011 年 3 月 4 日、ブカレスト大学 (ルーマニア)

⑨ Kimitaka Matsuzato、"Transnational Minorities Challenging the Interstate System: Mingrelians, Armenians, and Muslims in and around Semi-recognized Abkhazia"、International Conference on the Modernization of Russia and Eurasia: Challenges and Opportunities(招待講演)、2010 年 11 月 13 日、国立政治大学 (台北、台湾)

⑩ Kimitaka Matsuzato、"Canonization, Obedience, and Defiance: Strategies for Survival of the Orthodox Communities in Transnistria, Abkhazia, and South Ossetia"、The 8th ICCEES World Congress in Stockholm、2010年7月28日、tockholm City Conference Centre(Sweden)

⑪ Kimitaka Matsuzato & Fumiko Sawae、"Rebuilding a Confessional State: Islamic Ecclesiology in Turkey, Russia, and China"、the international symposium, "Comparing the Politics of the Eurasian Regional Powers: China, Russia, India, and Turkey"、2009年12月13日、Hosei University(Tokyo)

⑫ Kimitaka Matsuzato、"Political Discourse and Trans-border Politics in Georgia and Ossetia after the Five-day War"、The conference, "Putin's Blueprint and the Five-Day War in Georgia: Security and Political Implications in the CEE/CIS and U.S. Policy"、2009年4月6日、Heldref Publications(WashingtonDC,USA)

〔図書〕（計 9 件）

① 廣瀬陽子、『ロシア 苦悩する大国、多極化する世界』、アスキー新書、2011、256 頁

② Tetsuya Sahara、"Two Different Images: Bulgarian and English Sources on the Batak Incident," in Peter Sluglett and M Hakan Yavuz, eds. *War and Diplomacy: The Russo-Turkish War of 1877-1878 and the Treaty of Berlin*、University of Utah Press、2011、pp. 479-510

③ Tetsuya Sahara、*The City in the Ottoman Empire: Migration and the Making of Urban Modernity*、Routledge、2010、272 頁

④ 廣瀬陽子 (分担執筆) 石田勇治・武内進一編、『ジェノサイドと現代世界』、勉誠出版、

2010、195-224 頁

⑤中島崇文、「冷戦終結後のルーマニアにおける民主主義の進展」永松雄彦、萬田悦生編著『変容する冷戦後の世界—ヨーロッパのリベラル・デモクラシー』、春風社、2010、第9章(217-242 頁)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

無し

6. 研究組織

(1)研究代表者

松里 公孝 (MATSUZATO KIMITAKA)
北海道大学・スラブ研究センター・教授
研究者番号：20240640

(2)研究分担者

佐原 徹也 (SAHARA TETSUYA)
明治大学・政治経済学部・教授
研究者番号：70254125
廣瀬 陽子 (HIROSE YOKO)
慶應義塾大学・総合政策学部・准教授
研究者番号：30348841
澤江 史子 (SAWAE FUMIKO)
東北大学・大学院国際文化研究科・准教授
研究者番号：70436666

(3)連携研究者

間 寧 (HAZAMA YASUSHI)
独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域センター・中東研究グループ・グループ長
研究者番号：70401429
黒木 英充 (KUROKI HIDEMITSU)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授
研究者番号：20195580
秋山 晋吾 (AKIYAMA SHINGO)
北海道大学・スラブ研究センター・共同研究員
研究者番号：50466421
新免 光比呂 (SHINMEN MITSUHIRO)
国立民族学博物館・民族文化研究部・准教授
研究者番号：60260056
北川 誠一 (KITAGAWA SEIICHI)
東北大学・国際文化研究科・教授
研究者番号：50001813
中島 崇文 (NAKAJIMA TAKAFUMI)
学習院女子大学・国際文化交流学部・准教授

研究者番号：90386798